

書評

内 昌之, 高橋哲也(編集)

「なぜ」から導く 循環器疾患のリハビリテーション 急性期から在宅まで

評者 神津 玲

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科内部障害リハビリテーション学/
長崎大学病院リハビリテーション部)



今までにない魅力的なタイトルであり、異彩を放っている。書籍の外観はシンプルで、ちょうど良い分量。内容はきわめて実践的で良質、エッセンスが無駄なく凝縮されている。

評者が本書を手にして最初に抱いた印象である。

本書は、わが国の心臓リハビリテーションと理学療法法のフロンランナーである内昌之先生と高橋哲也先生のお二人が編者となり、臨床現場で日々、循環器疾患の患者さんに向き合っておられる気鋭の臨床理学療法士の方々が執筆された専門書である。執筆陣の一覧を拝見し、本書の質の高さを納得した次第である。

加速する高齢化において循環器病学は急速な進歩を遂げており、心臓リハビリテーションの重要性と期待はますます高まっている。この領域ではすでに多数の類書が存在するが、本書は、①治療と心臓リハビリテーションの継続的な流れに従う、②「運動療法」をキーワードとして、評価やプログラムの立案、実施にあたって「何が必要か」ありきではなく、常に「それはなぜか」という視点で記載、③簡潔な文章とともに多くの図や写真を多用、といったコンセプトのもとで編纂されており、従来になかった斬新な専門書である。臨床現場では、「なぜ」と問われて明快に答えることができないことは意外にも多い。本書は、そんな「なぜ」

に答えてくれる大変親切な内容であることも評者は強調したい。

多くの執筆者による専門書は、一般的に内容にまとまりを欠く傾向があるが、本書では良好に一貫性が保たれており、読んでいてストレスが少ない。このようなレベルの高さは、やはり両先生の知識と編集レベルの高さ、そして何よりも良書を世に送り出したいという高い「志」によるものであり、あらためて敬意を表する次第である。

カラーで見やすく、項目が見開き1ページでまとめられており、無駄がないために内容がシンプルに「わかりやすい」。初学者は心臓リハビリテーション全体の流れを俯瞰するとともに正しい基礎知識の習得に、ベテランはスタッフ指導の教本にと、本書の利用価値は多岐にわたるものと確信する。真に役に立つ実践書であり、心臓リハビリテーションにかかわるすべての理学療法士、さらには医療スタッフにお薦めしたい一冊である。

● B5判, 200頁, 4色刷

定価: 本体 4,500円+税

金原出版社, 2015年